

水稻生育情報 (No.4)

令和7年7月18日
県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)

【気象と生育の概況】

本年5月第1半旬から6月第6半旬までの気象は、日平均気温が平年より **0.9℃高く**、日照時間が平年比 **139%**で推移しました。特に、6月第4半旬から第6半旬は、日平均気温は平年より **4.2℃高く**、日照時間は平年比 **174%**で推移しました。

6月30日現在の水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況は、草丈は**高く**、茎数は**やや多い～やや少なく**、葉色は**平年並**です。**5月上旬移植の圃場は幼穂形成期に入っているため、中干しを終了し、間断かんがいを行います。**

表1. 水稻定点調査 (7月1日現在: コシヒカリ)

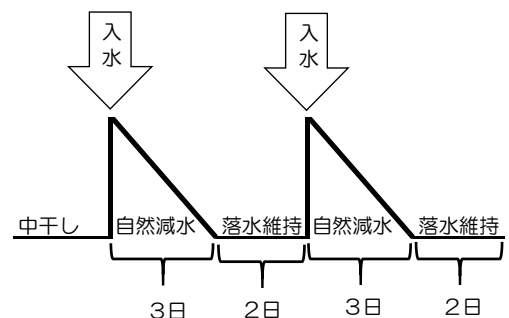
調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉色板) (SPAD値)	
土浦市	5月5日	60	74.1	567	3.3	31.3
飯田	(5月5日)	60	(60.6)	(492)	(3.9)	(31.7)
石岡市	5月15日	50	69.5	429	3.5	31.4
柿岡	(5月15日)	50	(60.3)	(492)	(3.8)	(32.0)

※ () 内は平成27年～令和6年の10か年平均値

【今後の栽培管理のポイント】

●中干し後の水管理～間断かんがい～

5月上旬移植コシヒカリは7月上旬に幼穂形成期に入りますので、中干しを終了して下さい。中干し後の稲の根は、畑作物の根のように酸素を必要とします。常時湛水管理では根腐れを起こす危険が高まります。根の活力保持のため右図の様に間断かんがいを行います。



●いもち病の防除について

気温 14～30℃で多湿条件のときに発生しやすく、葉いもちは例年6月下旬から発生が認められます。水口や葉色が濃い部分を中心に観察し、発生したら防除します。

●追肥について

「コシヒカリ」の適正な追肥時期は出穂前 15 日頃です。幼穂長が 10mm で出穂 18 日前、30mm で出穂 15 日前です。幼穂は生育が中庸な株の主稈を調べます。異なる株から 5 本程度の幼穂長を計測し平均値をとります。右図を参考に行ってください。

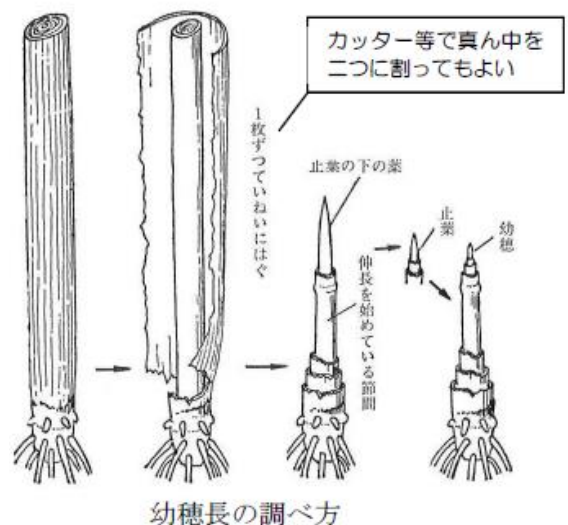
追肥量は窒素成分で 1～2kg/10a です。ただし、出穂 20 日前頃(幼穂長 4～6mm)の草丈が 80cm 以上で葉色(カラススケール)が 4 以上の時は倒伏の恐れがあるので、追肥を控えるか遅らせます。

多収性品種や飼料用米では出穂 20～25 日前(幼穂長 0.5～5mm)が追肥の適期です。窒素成分 2～4kg/10a を目安に施用します。

●斑点米カメムシの耕種的防除

畦畔の除草を出穂 2 週間前までに完了させます。

早生品種では 7 月上旬に出穂見込みの圃場も見受けられます。**今年は斑点米カメムシ類の多発が懸念されるため、適期に薬剤による防除を行いましょう。**



令和7年の気象の推移

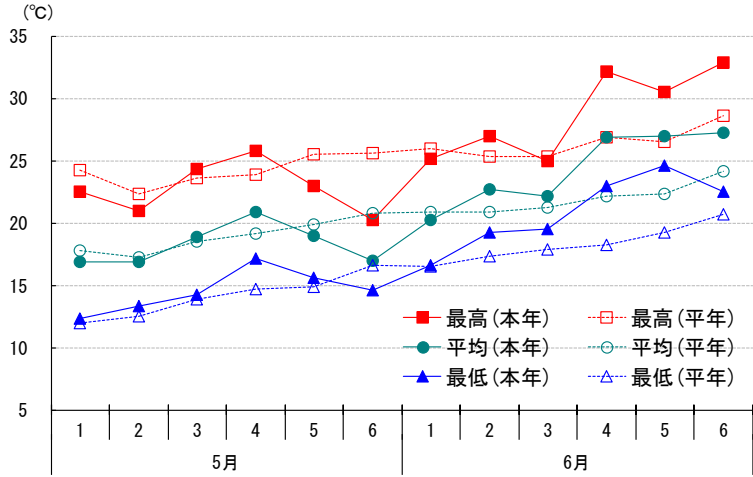


図1 半旬別気温の推移（土浦市）

注）平年値：平成27年～令和6年の10年間の平均値
アメダス土浦観測所データより作成

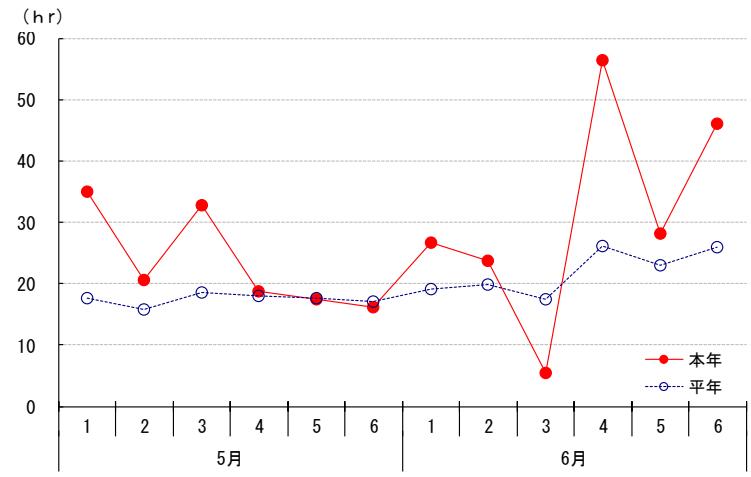


図2 半旬別日照時間の推移（土浦市）

注）平年値：平成27年～令和6年の10年間の平均値
アメダス土浦観測所データより作成

令和7年の生育経過グラフ

